

## インドネシア水道に係る情報収集 No. 190105-3J

検索サイト	Google	実施日	2019/01/05	実施者	TADOKORO
検索方法：「インドネシア の 水」で検索					
URL: <a href="http://www.adaptation-platform.nies.go.jp/symposium/2018/pdf/symposium2018_siry005_J.pdf">http://www.adaptation-platform.nies.go.jp/symposium/2018/pdf/symposium2018_siry005_J.pdf</a>					
<p>標題: 気候変動への適応をいかに推進するか：インドネシアの場合</p> <p style="text-align: center;">Sudhiani Pratiwi 博士 インドネシア政府国家開発計画庁(BAPPENAS)気候変動担当副局長</p> <p style="text-align: center;">気候変動適応法施行記念国際シンポジウム 東京 2018年12月4日</p>					
<p>内容: (抜粋) 利用可能な水量と干ばつに関する潜在的リスクマップ (予測：2020-2034年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020-2034年において、降水量は1-4%まで <u>(訳注：1~4%)</u> 減少すると予測される。降雨強度の変化は、水にかかわる問題、とりわけ水不足と干ばつに関する問題を伴う。</li> <li>・北部スマトラ、ジャワ、バリ、ヌサ・テンガラ諸島、ならびに北部マルクでは、2020-2034年において利用可能な水量が潜在的に低下すると予測される。</li> <li>・2020-2034年における干ばつの可能性は、全領域で予測され、ヌサ・テンガラ諸島ではより厳しい事態となるだろう。</li> </ul>					
<p>備考 平成30年12月1日から施行された気候変動適応法に関して、環境省、国立環境研究所の主催で行われた国際シンポジウムにおける講演資料。</p> <p>シンポジウムのプログラムは <a href="http://www.adaptation-platform.nies.go.jp/symposium/2018/">http://www.adaptation-platform.nies.go.jp/symposium/2018/</a> を参照してください。</p> <p>(このような法律が制定されていたこと自体を、知りませんでした)</p>					